

北海道 国際理解教育研究協議会



会報 第39号

ご協力ご支援に感謝して

第24回全国海外子女教育・国際理解教育研究大会
北海道大会実行委員長 田畑 雅 皓
(釧路市立武佐中学校長)

平成9年度の第24回全国海外子女教育・国際理解教育研究大会が霧の街釧路市で、全国各地より多くの会員の皆様のご参加のもと、盛大に開催することができました。特に全道の国際理解教育研究協議会に結集する会員の皆様の教育への熱い思いと多大なご支援のたまものと深く感謝し御礼申し上げます。

本大会はこれまでの北海道大会での研究の経過をふまえ、今求められる国際理解教育の課題について共に考え、実践の交流を指向しようという前提を設定しました。

本大会の特徴を①全国初の幼小中高の授業公開、②クロスカリキュラムの作成、③共生と環境教育、として研究をすすめてまいりました。当日は、940人の参加者がどの教室にもあふれ国際理解教育の授業実践に多くの共感を戴きました。

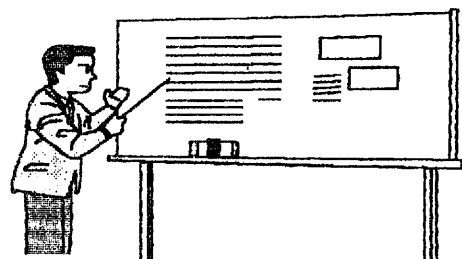
5分科会8教室での研究協議に全国から30名の方々によるレポートを用意しての発表がありました。そのうち北海道は約半数の14名の方に協力を賜わり北海道として本当によかったと感謝と御礼を申し上げます。また、北海道国際理解教育研究協議会の会員の校長先生方には、快く司会をお引き受け戴き心より御礼申し上げます次第です。

大会初日のフォトジャーナリスト長倉洋海氏による記念講演は「世界の紛争地、辺境に生きる人々の生き方」をカラーの映像とともに人間の生き方や環境教育に大きな示唆を与えてくれました。2日目のシンポジウムと合わせ大会収録に詳細に掲載されていますので、再度是非ご覧くださいませ幸いです。

本会の会員各位のご支援ご協力のおかげにより大会に参加された外務省、文部省、海外子女教育振興財団からも北海道大会の取り組みに高い評価を戴いており、共に喜びたいと思います。

「研究大会の終着駅は始発駅」であり、21世紀の国際社会を豊かな心を持ちたくましく生きる児童生徒の育成に一層の努力をする次第であります。

終わりになりますが、ご協力ご支援いただきました北海道教育委員会、釧路市教育委員会および関係各位に重ねて感謝申し上げますと共に、会員各位のご健勝ご活躍をご祈念申し上げます。お礼のご挨拶と致します。



釧路大会に学ぶ

研究部長 中村 淳

7月30日、31日の両日、釧路で行われた全国大会は、全国・全道から900名をこえる参加者を迎え成功のうちに幕を閉じることができた。特に、今大会は、分科会による研究協議にとどまらず、全国に先立ち授業公開をするなど歴史に残る大会だといってもよいだろう。

ここでは、釧路地区が全国の仲間を示してくれた21世紀の国際理解教育の姿を中心に報告をしたいと思う。

その1、理念より実践

今大会で、全国の仲間から高い評価を得たのは、国際理解教育の具体化の道を授業を通して示したことだろう。国際理解教育の授業がどんな子供たちを創造していくのかは、やはり、『授業』のなかで表現されなければならないという、釧路、そして北海道の研究の基本的な立場が高い支持を得たといえよう。

公開された、幼、小、中、高、の6つの授業は、どの授業にも、教室に入りきれないほどの参観者で埋まり、参加者の熱気で覆われていた。特に、追求する子供たちの姿は本当にすばらしく、授業者の先生方の日頃の実践の歩みの確かさを感じた。

分科会での研究発表においても、「国際理解教育とは？」という理念を問題とするのではなく、いかに教室の場で国際理解教育を実践していくのかという具体化への道そのものが話題の中心であった。特に、普段の授業をどうすれば国際理解教育の授業に変容させていけるのかという悩みや苦しみが多数報告されていた。そういう全国の仲間たちにとって、公開された授業は、これからの具体的な目標となる授業であったといえよう。

その2、変革の力としての国際理解教育の実践

研究協議において『今、なぜ国際理解教育なのか』という声に代表されるように、国際理解教育が従来の教育とどこが違うのか、なにを目指すのか国際理解教育の立場から学校教育に対してアプローチの仕方が話題になった。国際理解教育では、国際社会に生きるこんな子供たちを育てていくことができるんだという具体像を示すことにより、従来の教育との違いを明かにし、私たちの担うものを明かにしてくれる考える。

今大会では、釧路地区の仲間が、長年の実践の積み重ねであるクロスカリキュラムを発表した。このカリキュラム作りの過程を通して、私たちの実践は、各教科間の関連が図られ、指導内容や学習方法の統合性が生まれてくると考える。したがって、このカリキュラムは、学校現場において、他の領域との関係を明かにし、国際理解教育を学校全体で取り組むことを可能にする鍵になると考える。今回の提案を、釧路地区だけに終わらせることなく、釧路から北海道、そして全国への提案だと考え、これからの研究の課題としてその方向性を探っていく必要があると考える。

分科会に参加しての感想

岩見沢市立幌向小学校教諭 石塚 信彦

7月30日、5階のハイビジョンシアター室でインターネットを用いた授業を参観した後、【Ⅱ 国際理解教育の課題と実践】の中の「① 学校教育における国際理解教育の現状」に参加させていただきました。

帰国して以来これで7回目の全道大会、初めての全国大会に参加したことになり、釧路は93年第14回大会以来2度目ということもあって、続けて大会に関わってこられた先生方の労苦がしのばれました。

さて、分科会ではまず釧路市の秋田先生が「～国際理解教育・環境教育・情報教育・健康教育のクロスカリキュラムの作成と意義～」について説明がありました。これは国際理解教育と環境教育、情報教育に共通する「人間尊重」と「共生」の精神に着目し、三つの教育課題をひとまとめにしたカリキュラムとのこと。

前回参加したおり、「国際教育カリキュラム」をいただきました。それは8つの能力（国際性の契機として）による能力基底表があり、それに基づく各教科のカリキュラムという労作でしたが、今回はそれをさらに環境と情報への広がりを持たせ、国際理解教育については整理・深化させたものと思われました。

次に札幌市の荒島先生が「～シンガポールと日本の生徒の生活意識や社会機構の調査結果から～という非常に精緻なアンケートの成果と課題の発表がありました。

その中では日本人生徒の利己主義な面、アジア軽視の面、また教師に対する尊敬の念が薄いこと等が発表されましたが、薄々日本人が感じていることが明らかになった気がしました。レポートにもありますが、日本の伝統的な価値観や倫理観の見直しが大切なのかなあと感じました。

次に新潟の佐藤先生が「私たちのアジアを見つめて」ということで、フィリピンやバンラデッシュの人たちとの交流活動などの発表がありました。特にその中で、学校で保護者を交えて本場のインド料理を作り、手食文化を体験した実践には感心しました。勉強することも大切ですが、このような活動は手食に対する偏見を取り除くには一番有効かなと思います。

最後に札幌市の白石先生から札幌市の実践の発表がありました。中で、今後求められる国際理解の本質は昨今の国際化社会・情報化社会に対応する資質や能力の育成という「流行」的なものではなく、相互依存関係をふまえた連帯意識から、共感的態度と行動を伴った、人間尊重の精神を持つ主体を培う、「教育の不易」の部分と強く結びついているという発表がありました。

最後に座長の多田先生からのまとめがあり、その中で札幌の実践を高く評価していたのが印象に残りました。

いずれにせよ私自身も帰国して7年目、海外ではという話よりも、今、目の前にいる子供たちをどう変容させていくのかという問題意識をさらに深めることのできた大会だったと思います。自分にとっては大変有益な大会であり、運営もすばらしかったと思いました。今回の大会に参加させていただき、本当にありがとうございました。

IEフォーラム

点から線への実践

10月、11月と私の所属している札幌地区においては、国際理解教育に関する研究大会が連続して実施されたが、どの大会にも多数の参加者があった。特に、今回までは全く違う顔、初めて会に参加する人たちの多かったことに驚かされた。又、研究討議の中においても、「国際理解教育って何ですか？」という討議ではなく、「この実践はどんな子供を育てていたか。」という子供の育ちが中心になってきた。

このことは、国際理解教育が、その重要性を認知され、裾野を広げはじめて来た証拠だと考える。しかし、その反面、教科からの国際理解教育への接近も始まっており、本会のめざす子供の育ちの姿をより具体的に明かにする必要性にも迫られているとあってよいだろう。

すなわち、国際理解教育の授業を1時間のなかで示すだけでなく、単元や、他教科、そして他領域の授業を絡み合わせた、年間の中での育ちを見通しながらの実践がのぞまれてくるのではないだろうか。

☐☐☐☐ 図書紹介 ☐☐☐☐

教職研修8月増刊号 「総合的な学習」授業実践マニュアル No.3

国際理解教育の考え方・進め方 佐藤郡衛編集
『教育開発研究所』

1966年の中央教育審議会の第1次答申において、国際理解教育を総合的な学習として進めることを提案して以来、学校で国際理解教育をどう進めていくかがますます大きなテーマとなっている。

しかし、『総合』という言葉の意味も多義であり、そのとらえ方も多様であるため展開の方向性もまだ定まっているとはいえない。

ただ、総合的な学習の提起する課題は、単にどうすすめていくかという技術論にとどまらず、授業の在り方そのものの検討を迫っているといってよいだろう。

本書は、編者自身がこの本のことを「総合的な探求の書」と位置付けているように、総合的な学習としての国際理解教育の在り方を8章にわたり解説している。

この本は雑誌の増刊号という性格上、1つの項について2ページという制約もあるため、内容が、キーワードの紹介にとどまり、深い内容とまでいかないのが残念であるが、今何を大切にしていけばよいのか広く理解することができる。

海外からのたより

こんな便りが来ています。詳しくお知りになりたい方は、事務局にお問い合わせください。

アゾンだより

【第29号】

1997年 8月25日

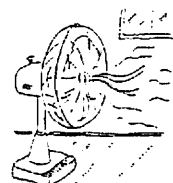


年中咲き続けるハイビスカス

ブラジルマナオス日本人学校
高木 司(附属旭川小学校)

AGOSTO(アゴスト)=8月 8~12日と、フリーージェンがあり、徐々に涼しさを味わったマナオスです。しかし、その後はやはり全く雨が降らず、カンカン照りの平常のお天気になりました。40日間と長い夏休み。この時期は日本からのお客さんも多くなります。多くの人が「こんな熱帯ジャングルにも、日本人学校があるのですね」と驚かれます。近年は完全に観光ポイントの一部に加わったようです。

※フリーージェン=大陸西部からアンデス山脈越えに冷気を含んだ吹き降りる風のこと。



あつい~
あつい~

FROM SYDNEY

1997. 7. 1

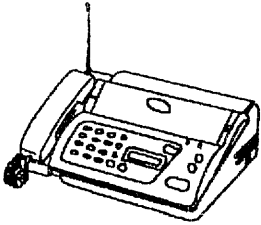
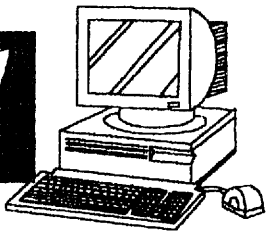
カンガルー・ポスト NO. 16

SYDNEY JAPANESE SCHOOL NOBUAKI BABA

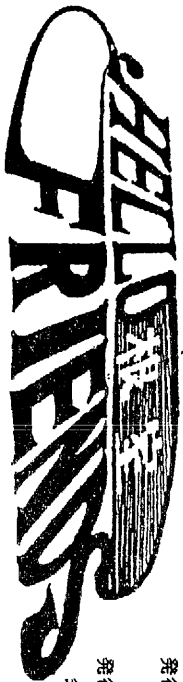
1学期の様子から(2)

オープンウィーク

6月10日から6月13日までの4日間に渡り、今学期最大の行事「オープンウィーク」が実施されました。昨年度は3学期(10月下旬ごろ)に行われていたのですが、他の行事や来校する現地校の子定等の関係から1学期に行われました。6~8月にかけては、現地の学校でも自校を広く紹介しようということで、似たような取り組みが行われています。



各地区の便り



発行日

1997.8.27

発行責任者

会長 青山 信一

全国研釧路大会に参加

7月30・31日に釧路市生涯学習センター（まなぼとぎ館）を会場に、平成9年度第24回全国海外子女教育・国際理解教育研究大会、第7回北海道フロンティア研究大会が行われました。

本研究会より、青山校長、高橋校長、山崎教頭、外山先生、横澤先生、加藤の6名が参加しました。

また、横澤先生が、第3分科会「地域や大学における国際交流の現状」において、「北方領土とのビザ無し国際交流の実践」を発表しました。先生本人が札幌島へ渡ったときの経験を生かした社会科の実践や、川北中学校で行われているロシア人青少年との授業交流について、ビデオを交えながら発表されました。

～参加者の声～

◎釧路町立春松中学校 高橋特校長先生

去る7月30日(水)、31日(木)の両日、釧路市生涯学習センターで行われた全国大会に参加させていただきました。

昨年からは、現興洋小学校の種原校長さんより強力な参加要請があり、期日が近づくとしたが、全国の出席者が予定の数に達するか本当に心配でした。十勝管内や網走管内の各市町研究会事務局や、後輩たちのところへ電話して実情を訴え、参加をよびかけてきました。

当日の会場で参加状況を知り、本当に感激しました。なんと6000名を5割以上越える9000名を数える参加者なのです。気持ちの上かも知れませんが、頼まれた気がしました。あまりの嬉しさに、巡検コープの釧路太平洋洋館の見学にも気持ち良く参加させていただきました。近くに居ながら、実際に地下600m以上の海底炭鉱、釧路港沖合14kmの体験は、新しい発見をさせてもらいました。

オツと、授業のことを飛ばしてしまいましたが、多種多様な国際理解教育の手法がある事もわかりました。

管内研究会並びに各校の先生方出席ありがとうございました。

◎中興洋小学校 山崎守教頭先生

7月30日、第24回全国海外子女教育・国際理解教育研究大会に参加してきました。会場の釧路市生涯学習センターは全国からの9000名を超える参加者でいっぱいでした。開会前のロビーでは、海外派遣先で一箱だった先生との再開で懐かしむ姿があららで見られました。

開会式の後、釧路市出身で世界で活躍するフオトジャーナリスト長倉洋海氏の講演がありました。氏は、世界での活動が故郷釧路の自然の大切さを感じるようになったと世界各地のスライドを見せながらのお話には感銘を受けました。

昼食後、授業公開のあと第3分科会が始まりました。根室管内国際理解教育研究会を代表して川北中学校の横澤英三先生がロシアとの青少年交流事業「ビザなし交流学習」の提言がありました。実際に引率しビデオ撮影した映像が紹介されました。

夜は歓迎レセプションに参加しました。300名ほどの参加でしたが、朝夷太鼓の勇壮な演奏を聞き、交流も深まり楽しい一時を過ごしてきました。

◎釧路町立川北中学校 横澤英三先生

7月30日に釧路市で開催された第24回全国海外子女教育・国際理解教育研究大会に提言者として参加させていただきました。

横澤町川北地区・川北中学校における北方領土在住ロシア人島民との交流と北方領土学習の取組みについて発表しました。全国大会での提言と言うこともあり、拙い実践を発表するのは心苦しくも思いましたが、管内国際理解教育研究会や管内北方領土学習研究会の皆様のご支援により、何とか大役を果たすことができました。この場を借りて感謝申し上げます。

11月13日(木)研究会開催

詳細については、後日案内しますが、今から日程を空けてください。

- 場 所：別海中学校
- 内 容：授業研、講演等
- 教 科：社会科
- 授業者：越後 靖先生

お詫びと訂正
 会報第1号の会員名簿の中で誤りがありました。顧問の横地宣也先生は現在、根室市北方領土館長をされています。謹んで訂正し、お詫び致します。

私たちと一緒に

国際理解教育について

考えてみませんか?

会費を募集しています。興味のある方は最寄りの会員、または事務局まで。

(事務局：釧路町立川北中学校 加藤和弘)